

岩見沢市、旭川市、帯広市、北見市の4市で構成する北海道市営競馬組合により、ばんえい競馬を開催してきましたが、累積赤字が増え続けるなど、4市による継続は困難との結論に達し、長年、皆さんに親しまれてきたばんえい競馬が、岩見沢では見られなくなりました。

市が、この判断に至った経緯をばんえい競馬の歴史を含めて、運営が悪化したこと、最終判断の経過、また、これからの清算のことなどを皆さんにお知らせします。

4市による

岩見沢市・旭川市・帯広市・北見市

ばんえい競馬 廃止に



4市で構成する 北海道市営競馬組合

ばんえい競馬は、北海道の農村を中心に、娯楽として親しまれていた「お祭りばんば」から生まれ、開拓の歴史とともに発展してきた競技です。その後、地方競馬法が施行され、馬券を発売する公式競技として行われるようになりました。

競馬法では、競馬の収益をもつて、畜産の振興、社会福祉の増進、医療の普及、教育文化の発展、スポーツの振興および災害の復旧のための施策を行うのに必要な経費の財源に充てるよう努めるもの、とされています。

岩見沢の競馬は、大正12年に始まって以来、幾多の変遷を経て、昭和28年からは、岩見沢市、旭川市、帯広市、北見市の4市がそれぞれ主催する市営競馬として行われてきました。

しかし、4市がそれぞれ独自の計

◇ばんえい競馬の歴史◇

- 昭和21年 地方競馬法施行により、ばんえい競馬が公営競技に
- 28年 競馬法改正により、旭川、岩見沢、帯広、北見が市営競馬として、単独開催スタート
- 43年 4市が「北海道市営競馬協議会」を設立
- 平成元年 市営競馬協議会を解散し、4市で構成する「北海道市営競馬組合」を設立。4市による開催へ
- 2年 組合事務所を旭川市に移転
- 3年 発売額が約322億円で過去最高に
- 11年 10年度決算で単年度収支が約3億5千万円の赤字
- 16年 「北海道の馬文化」として北海道遺産に選定
「ばんえい競馬経営再建5か年計画」を策定
- 17年 ばんえい競馬を題材にした映画「雪に願うこと」を製作
- 18年 17年度決算で単年度収支約7億2千万円の赤字で、8年連続の赤字となり、累積赤字は約31億円となる

画で開催するため、賞金の格差や開催日程が競合するなどの弊害が表れてきました。

そこで、この解消と併せ、職員の特任化や開催業務を一元化することなどを目的に、平成元年に4市で構成する一部事務組合として、北海道市営競馬組合を設立し、この組合が運営するばんえい競馬として開催してきました。

悪化した運営

組合運営のばんえい競馬となつてからは、売り上げも伸び、平成3年度には過去最高となる322億円の発売額を記録するなど黒字基調で、構成4市に対しては、合計で27億円を配分金として還元してきました。

しかし、レジャーの多様化や不況の影響でファンが徐々に減少し、平成10年度からは赤字に転落してしまいました。

その後も広域場外発売所の拡充や電話投票等の導入、さらには若いファン層拡大のためのPR事業の充実など、様々な経営改善策を取ってきましたが、どれも決め手に欠け、発売額の減少傾向に歯止めがかかりませんでした。

ばんえい競馬に限らず、中央競馬や地方競馬、競輪や競艇など、全国の公営競技の市場規模が急激に縮小していききました。

こうした状況の中で、収支の均衡を目指し、平成16年度に、「ばんえい競馬経営再建5か年計画」を策定し、平成17年度からスタートさせました。

しかし、その初年度に、単年度収支決算が約7億円の赤字となり、さ

らに累積赤字も約31億円を超える結果となり、計画は事実上頓挫してしまいました。

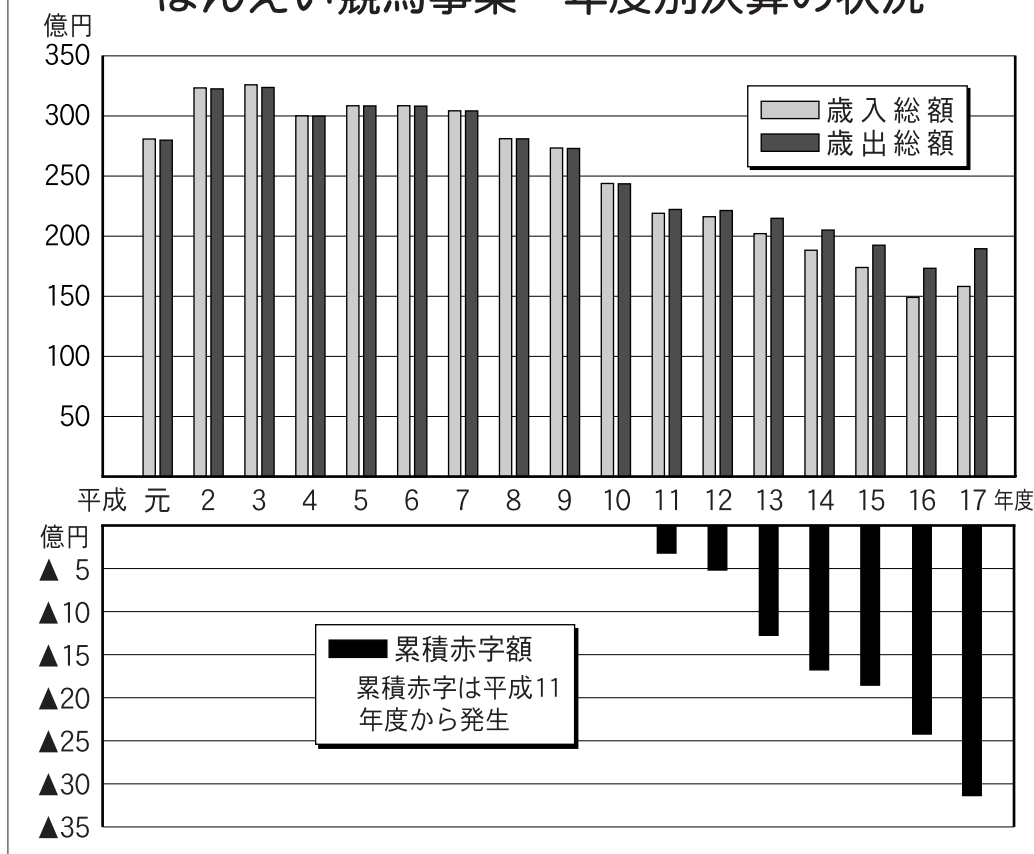
構成4市長

存廃判断へ



このような厳しい経営状況を踏まえて、平成18年1月、市営競馬組合を構成する4市の市長が、「4市による運営は、もはや限界であり、運営方法の抜本的な見直しは避けられない」との認識で一致。3月には管理者からの指示で馬主協会、調騎会、生産者団体および市営競馬組合の競馬関係者による「ばんえい競馬改革検討プロジェクト」を設置し、ばん

ばんえい競馬事業 年度別決算の状況



えい競馬の再建に向けた具体的な検討作業が行われ、10月7日に最終検討案が示されました。
これを受け、10月20日に構成4市長による正副管理者会議において、現在の4つの競馬場で開催を続

けた場合の計画を検証した結果、発売額を15億円とする推計と、それぞれの競馬場を無償で借り受ける条件に大きな問題があり、4市での開催の継続は困難との最終報告が出されました。
4市の最終判断としては、

- 平成18年度限りで、4市による4競馬場での競馬は廃止する
 - これに伴い、一部事務組合を解散する
 - 解散に伴う補償を含めた全債務は4市で負担することが確認されました。
- また、この会議上、ばんえい競馬

岩見沢市の最終判断

その後、市は、ばんえい競馬を何とか残すことはできないかと、庁内に組織横断的な「ばんえい競馬庁内検討会」を設置し、帯広と岩見沢の2市での開催の可能性と収支状況の精査・検証を行いました。

検討会は、総務省への開催許可申請書の提出期限、さらには、2市による新たな一部事務組合の設立に係る議案を12月議会に提出しなければならぬなど、短い時間の中で精力的に検討作業を行いました。
また、このことと並行して、市民

を存続させるため、改革検討プロジェクトから、2つの競馬場に集約して開催する案として、「帯広と旭川」「帯広と北見」「帯広と岩見沢」の3つのパターンが示されましたが、旭川市と北見市がばんえい競馬からの撤退を表明しました。

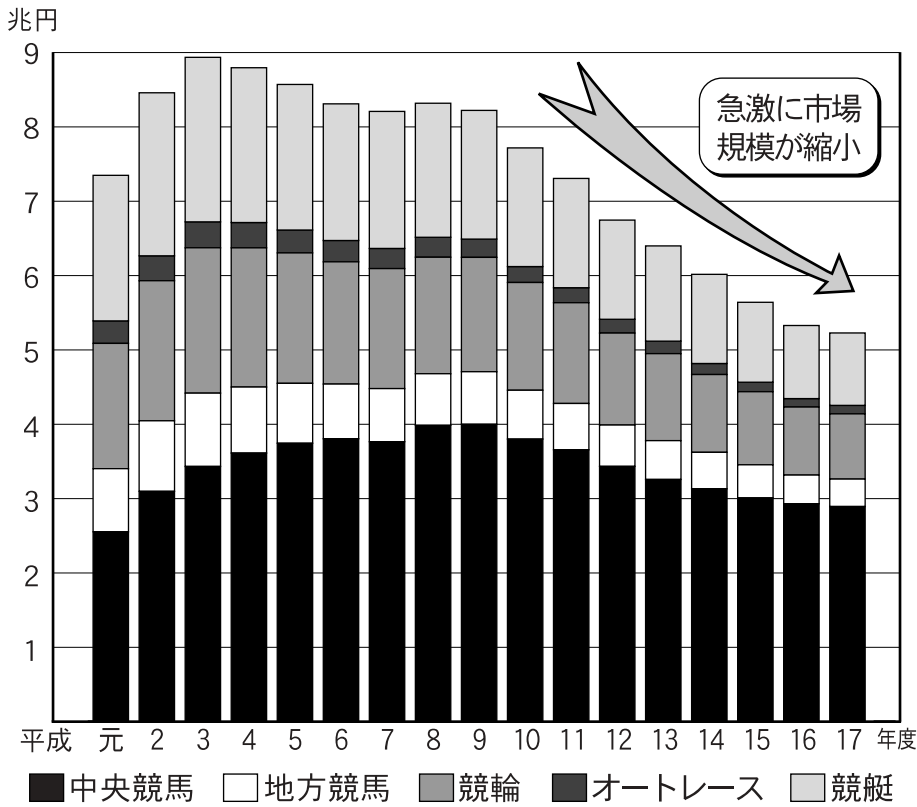
そこで帯広市が、帯広と岩見沢2市での開催を表明しましたが、岩見沢市は、2市での開催の是非を判断するには、示されたプロジェクト案の精査が不十分であり、さらには市民議論、議会議論を踏まえて判断していきたいとして、結論を出しませんでした。

で組織した「ばんえい競馬のあり方を考える有識者会議」を開いて市民議論を重ねるとともに、議会でも議論を続けました。

その結果、有識者会議からは、11月24日に「ばんえい競馬は廃止も止むなし」との答申が出され、また、同日開かれた市議会議員協議会においても、「ばんえい競馬の存続は困難」との意見が多数出されました。

これらのことを踏まえ、市は11月27日に記者会見を行い、その席上、岩見沢市長は、市民議論、議会議論

公営競技の市場規模の推移



急激に市場規模が縮小

の結果を十分に尊重し、慎重に熟慮した結果、

最終判断として、

○地方競馬を含む公営競技全般にわたり、予想以上の速さで市場規模と発売額が減少しており、ばんえい競馬が成立する環境にはないこと

債務の清算

このように、ばんえい競馬は1市で存続することになりましたが、今後、市営競馬組合を構成する岩見沢、旭川、帯広、北見の4市は、4競馬場で行うばんえい競馬の廃止に伴って、これまでの債務の清算が必要になってきます。

すでに、組合を構成する4市から職員を派遣し、「ばんえい競馬清算チーム」を立ち上げて、債務処理作業を進めています。債務は、18年度の赤字見込み額約8億円を含む累積赤字約40億円と、機器のリース契約解約費および組合職員の退職手当約10億円の計50億円が見込まれ、4市で均等に負担すると、1市当たり12億5千万円となります。また、4市によるばんえい競馬の

の伝承等については、今後、十分に研究をしていくとの、考えも示しました。

この岩見沢市の判断によって、2競馬場集約開催は無理となり、4市の市営競馬組合による、ばんえい競馬は廃止となりました。

なお、帯広市は、民間の支援を受けて、帯広市単独による平成19年度のばんえい競馬開催を決定しました。

廃止に伴う、調教師、騎手、厩務員など厩舎関係者の、今後の生活等についても、これまでに廃止となった地方競馬の救済措置などを参考に、関係者との話し合いの過程で、さらに債務額の増加が見込まれます。

負担金の捻出は、厳しい財政状況を考えると容易ではありませんが、4市の中で唯一、岩見沢市は競馬場等施設整備基金として16億8千万円の積立金があり、これを精算にあてることを検討しています。しかし、今後における全ての債務の清算処理は、4市の協議を踏まえて進められます。

問合せ先 市農務課